

バングラデシュ南部避難民保健医療支援事業～事務管理要員の仕事～

国際医療救援部 河合 謙佑

(派遣期間：1月8日～2月11日)

ミャンマーからバングラデシュに移入した避難民は、2017年8月25日以降その数が90万人を超えています(国連調査、2019年1月15日現在)。

同じアジアに位置する日本赤十字社は、避難民の方々に支援を行うために、世界の赤十字社の中でもいち早く緊急救援チームをバングラデシュに派遣し、2018年4月末までフィールドクリニックやフィールドホスピタルでの医療支援とこころのケア支援を行い、2018年5月からは中長期的に医療と共に保健、公衆衛生、心のケア支援をバングラデシュ赤新月社との二国間事業で継続しています。当院からも、現在までにのべ30名近い職員を現地に派遣しています。

この二国間事業は、これまでの緊急救援支援に続くもので、長期滞留の様相を呈するバングラデシュ南部避難民及び地元住民の自助や共助などレジリエンス(災害からの回復力)の強化を目的とする保健医療支援事業です。事業内容は以下の通りです。

- ① 地域保健活動の技術・運営指導
- ② 母子保健活動の技術・運営指導
- ③ こころのケア活動の運営支援
- ④ 診療活動(仮設診療所および巡回診療)の技術・運営指導
- ⑤ その他、仮設診療所の移転を含め、現地で必要とされる支援

私はこれまで緊急救援チームの先遣隊～第2班、第5班～第6班で派遣され、今回が3回目のバングラデシュへの派遣になります。緊急救援支援では事務管理要員のリーダーとして活動をしていましたが、今回は主にロジスティクス(物流や資機材管理)と上記の⑤を担当しました。2019年1月～2月における活動を報告します。

緊急対応ユニット (Emergency Response Unit, ERU) 資機材の寄贈

日本赤十字社は基礎保健 ERU と呼ばれるユニットを保有しています。ERU とは海外での緊急事態に出動させるユニットで、訓練された専門チーム(ヒト)と資機材(モノ)で構成されています。ERU の特長の一つが自己完結能力です。一か月間、他からの支援を得ることなく活動を行うことができます。そのため、ERU の資機材には医療機器の他に、要員が生活するためのテントやベッド、発電機に浄水システム、トイレやシャワー、そして食料などが備わっています。基礎保健の専門的な資機材だけでなく、生活環境を整える資機材も持ち合わせているのが日本赤十字社の ERU で、総重量は16トンにもなります。

日本赤十字社はバングラデシュ南部避難民への支援のため、ERU の資機材を2017年9月に保管先のドバイからバングラデシュに輸送し活動を行ってきました。

私の今回のミッションの一つが、これら ERU の資機材をバングラデシュ赤新月社に寄贈することです。前述の通り、ERU の資機材は災害対応に特化したものであり、発電機や水関係のシステム、テントなどが備わっています。今後もバングラデシュでの災害対応のために有効活用されることを目的に寄贈します。

寄贈には様々な作業があります。例えば寄贈する資機材の状態確認および一覧表の作成です。ERU は数百点にもおよぶ資機材で構成されています。これまでの活動で既に消耗しているもの、現在使用中のもの、未使用のものなど状態も様々です。寄贈のための作業は、これら資機材一点一点の状態確認から始まります。

また、寄贈はただ単に資機材をバングラデシュ赤新月社にお渡しすることではありません。有効活用していただくために、資機材の現物確認、資機材の操作方法に関する研修などを実施します。



寄贈されたテント（全部で 12 張りある）



バングラデシュ赤新月社職員と現物確認

仮設診療所改築にともなう作業

二国間事業で行われている活動の一つに、仮設診療所での診療活動があります。仮設診療所は 2017 年 12 月から使用が開始され、1 年 3 カ月以上経過した今も避難民キャンプの中にある診療拠点として重要な役割を担っています。この仮設診療所は竹とブルーシートで作られたハンドメイドの建物であり、気温が 40 度近くになる乾季と、毎日豪雨となる雨季を耐え抜いてきました。しかし、次回の雨季やサイクロンシーズン中に診療活動を継続するためには仮設診療所の改築（プレハブ式の建物）が必要と判断されました。

改築にともない開始した作業が一時診療所での活動と引っ越しの準備です。改築には約 2 カ月を要する予定で、その期間も私たちは診療活動を行います。活動場所は現在の仮設診療所から約 250 メートル離れた場所に位置する、もともと国境なき医師団が使用していた診療所です。この診療所も建てられてから 1 年近く経過しており、修繕が必要な場所がありましたので、私たちと活動を共にするコミュニティボランティアさんによって診療ができる環境が整備されました。

改築期間中に使用しない資機材については、仮設診療所に隣接する倉庫（20 フィートコンテナを使用）と周辺の空きスペースに移動することになりました。十数台のベッドや医療機器、家具、発電機や蓄電池など大掛かりな引っ越しが行われることから、仮設診療所で活動するバングラデシュ赤新月社の医療スタッフと避難民からのコミュニティボランティアの間に日々議論が交わされ、引っ越し計画が立てられていきました。

このように、現在バングラデシュの活動現場では、バングラデシュ赤新月社とコミュニティボランティアが中心となって避難民および地元住民の方々への保健医療活動を行っています。



高台に建つ仮設診療所。雨季対策の斜面補強工事が1月6日から実施されている。



一時保管用のコンテナ
コンテナの開口部には雨除けの屋根を設けている。



医療資機材の選別を行う Bangladesh Red Crescent Society 看護師と当院医師



資機材を移動後に床を掃除するコミュニティボランティアさん達
私たちの診療所の清掃は、キャンプ内のどの施設よりも行き届いている。

いつも当院の人道支援にご協力いただきありがとうございます。

Bangladesh への移入から 1 年半以上が経過し、避難民キャンプには二度目の雨季が迫ってきています。前回の雨季では小規模ながら土砂崩れがキャンプ内のいたるところで発生し、現在は国連機関を中心とした土木チームがその対策を実施しています。また、雨季は衛生環境の悪化による感染症の蔓延も起こりやすくなるため、私たちは Bangladesh 赤新月社、コミュニティボランティアと共に地域の衛生教育を日々行っています。

引き続き皆さまのご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。